

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1人ひとりの生活背景や認知度の状態を見て家庭生活を行う中での環境下で、それぞれの出来る事を活かし、町内や市内の夏祭り、文化祭、運動会など参加により、地域との交流を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	談話室と各ユニットの入口とカウンターに理念を掲げ、毎週月曜の朝、合同で朝礼を行う際に理念を復唱している。又、全体会議などで指導し理念の実現に取り組んでいます。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の契約説明の際に理念の説明を行い、年2回の家族会の開催時や、地域の方々も参加される夏祭りの際に、理念を交え挨拶しており、又病院と合同の季刊誌の中やパンフレットの中でも理念を交えて紹介しています。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	苑外散歩の際に挨拶してもらったり、隣人の方に苑内で採れた野菜をおすそ分けしたり、竹の子をもらったり、以前入居されていた方の家族が近所にお住まいで、おはぎや野菜をよく持って来ていただいている。近くの店で買い物や床屋も利用している。町内の行事などの案内状を区長さんより持って来て頂いています。	○	ADLの低下を防ぎながら散歩の範囲を少しずつ拡大できるように努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年行われている夏祭りや、文化祭に参加し昨年は出品もさせていただいています。非難訓練などにも地域の方、4名参加して頂きました。近所の高校生にボランティアで来てもらったりしています。	○	今後は自治会や老人会に加入したり、小学生や幼稚園との交流などもして、地域の一員として地元の活動や交流をより積極的に取り組んでいきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年11月より8回、地域の研修に参加。それぞれ全体会議で報告会を実施し、事業所独自で勉強会6回実施しています。本年度より市内のGH業者同士で集まり、事業所での成果や困っている事などの情報交換を行っています。	○	高校、中学の職場体験の受け入れを行っていて、地元の高校より体験あるも中学はまだない。市内の同業者との交換会も続けていき、地域との交流範囲の拡大に努めながら認知症についての普及を行っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果後は要改善な点や指導された点を会議で報告し、話し合い、改善実施してきました。運営推進委員会や家族会でも報告説明しています。又、評価を実施するにあたり自己評価表を回覧し、チェックしてもらい前回の結果を再度点検し、各分野において役割分担し実施しました。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度より偶数月に、必ず実施し毎回会議で報告、質問、意見を受け協力をうけております。本年度よりテーマを決めて会議を開催しています。ヒヤリハット報告にて意見を頂き、服薬箱を作成し、次回の会議で現物を見せ、事故防止できるようになりました。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH同士の横のつながりがなかったため、市に間に入って頂いて本年、9月19日、市役所にて意見交換会を開催しサービス向上にむけての会議を実施しました。	○	今度初めて実施したのですが、今後も交流できる頻度を少しずつ増やしサービスの向上に努めていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	H19.1.19全体会議で勉強会、9月19日、意見交換会において成年後見制度について市より説明あり。10月24日、全体会議にて権利擁護事業についての勉強会を実施。	○	機会がありましたら、家族会の時などに成年後見制度や地域権利擁護事業などの情報提供をしていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者のプライドを傷つけるような言葉使いなどがあった時、申し送りなどで注意を促し、スタッフ間で周知し、後日全体会議で改めて話し合い、見過ごされる事のないようにしている。市よりパンフをもらい、9月27日の会議にて高齢者虐待防止関連法についての勉強会を実施。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目に対して説明し、理解、納得を得られるように努めている。契約解除にあたっては、入院中の場合は家族、医師と共に話しあっている。経費の増額前は家族会に説明をし、納得を得た上で行いました。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大川市より介護相談員の訪問を受け入れ、本年度は2、6、8月に来所されている。運営推進委員会で利用者に参加してもらい、意見や要望を聞いている。意見や苦情が出た場合は全体会議にて話し合い、速やかに対応し、運営推進委員会や家族会で改善の経過や結果を報告しています。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、スマイル便りを送付し、その中で暮らしぶり、エピソード、受診状況など行っています。家族の面会時や支払い時など状況報告し、心身の状態変化があれば随時報告している。預かり金の使い道の確認、出納表を明示し報告し領収書と出納表のコピーをお渡しし、確認のサインをもらっている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を設け、意見の収集に努めています。玄関先に意見箱も設置。苦情や意見があった時も速やかに対応し全体会議でカンファレンスし改善の経過や結果を家族会や運営推進委員会で報告しています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期と必要時に、全体会議と各ユニット会議をし、行事、業務、環境整備、サービス内容、システムの変更等、あらゆる面でスタッフ間で話し合い、決定するようにしています。必要時には副院長にも参加してもらい、意見を出すようにしている。必要時は個別に話しをしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、日勤、遅出、夜勤において、まんべんなく行えるようローテーションを組むように作成し、1ユニット8人常勤で確保している。夜勤も常勤者しか行っていません。現在産休が1人いるのですが、以前勤務されていた、なじみのパート者が応援に来てくれています。なじみの関係が継続していけるよう受け持ち制としている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前、法人内の定期異動や新設事業所への転属等で、「スタッフの異動があり家族からもスタッフの顔が覚えられない。」という意見もあり、認知症の入居者に対しては良くない事を上層部に伝え、理解を得て異動は最小限となる。	○	職員の定着を図るために、個別面談の機会を多くし、相互理解に努めていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、各年齢層を考え20代～60代と幅広く、男女共に採用している。定年された後の方がパートで来られているが、差別なく職員の持つ特技や個性が活かせる様、役割をもってもらい、各自主導権をもってもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	H18年度は11月29日に人権問題講習会に参加、後日報告会をし、本年度は9月22日に人権啓発研修に参加し後日、報告会を実施。H19.1.19全体会議で勉強会、10月24日、全体会議にて権利擁護事業についての勉強会を実施。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートや正職者に限らず、研修や講習会の知らせが来た場合、掲示版に掲示し、参加を促し、研修会参加後は、研修報告書の提出と共に全体会議にて報告会を実施。職員育成については、年2回自己評価をしてもらい自己啓発、経験に応じて資格を取っていくように働きかけている。本年度1名介護福祉士取得。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度より9月19日、市が仲介となってもらう、市内の同業者による意見交換会を開催し、サービスの向上にむけ、取り組み、ネットワークづくりが出来、今後も参加していきたい。	○	管理者は他業者との交流を果たしたが他職員はまだ交流がないため、職員全体の同業者との交流を促進し、参加していくようにする。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼食後の休憩時は家具、TV、冷暖房、飲食できる備品や流し台、コンロのある宿直室を利用したり、テラスを利用したり、当施設の飲み会以外でも病院主宰の親睦会やイベント後の飲み会などに参加したりして、ストレスの軽減に努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり守られている。年2回の健康診断を行い健康を保つようにし、毎月、全職員の検便検査も実施している。年2回、自己評価をしてもらい研修参加状況、勤務状況、資格取得の努力状況など自己評価により向上心をもって働けるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	病院に入院されている場合、ホールや病室にて面接を行い、顔を覚えてもらう事より始め、出来るだけ話をし、本人の気持ちを聞きだせるようにアセスメントを行うようにしている。病院に行った時は立ち寄り挨拶、話をするようにしている。	○	急な退居などにより、十分に話しを聞く機会があまりないまま、入居になる場合もある。待機中の利用者には、急な入居に備え、状態把握に努めていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の数回の面会により、話をしていく中で、何に1番困っているか、何を望んでいるか、不安に思っているかを聞きだすようにしている。	○	急な退居などにより、十分に話しを聞く機会があまりないまま、入居になる場合もある。待機中の予定者の家族の情報もソーシャルワーカーを通して病院へ来られる時間など、話を聞く機会を多く持つようにしていきたい。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、相談に来られた時に十分な時間を設け、本人と家族のニーズが違っている場合は家族に本人のニーズを伝え、理解を求め協力を得るようにしている。又、対応困難な場合は、アドバイスを行い、納得のもとに他の機関を紹介したり病院のケアマネやソーシャルワーカーに相談してもらうようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者家族へ事前にご本人に見学して頂くようお願いしている。入院されている場合は病室へおじゃましたり、なじみの関係を作りご本人が納得してから利用してもらうようにしている。	○	緊急に入居されるケースもあり、1、2度の面会のみ時の時もあるため、待機中などは機会あれば随時会うようにしていく。
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、洗濯物たたみ、雑巾掛け、それぞれで発揮してもらい、書道、生け花などの特技など共に作業を行い、知恵を授かる事も多い。感謝の言葉を多くするようにしている。		
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望のある入居者に対して、電話をかける事や、面会に来てもらう事など理解を得て、よく面会に来ていただいている。墓参りやイベントや誕生日会などにも来ていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多くの家族がよく面会に来られ、家族との外出、外泊などされ、誕生日会や、イベントの際は連絡し参加を促し、疎遠となっている場合などは電話して面会にきてもらえるようにしています。入居費は振り込みでなく、もってきてもらうようにしています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた方の家族がなじみの入居者に会いに来られたり、苑内のイベントに参加して頂いたり、近所の商店やスーパー、ショッピングセンターに買い物に行ったり、以前の施設での友人が面会に来られたりされている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	他の入居者とコミュニケーションがとりにくい入居者に対してテーブル席の位置を変えたり、洗濯物たたみを一緒にしたり、体操、レクリエーションを一緒にしたり、スタッフが間に入り、コミュニケーションを取ったりしている。	○	利用者が孤立しないよう、活動を通して利用者同士が係わり合い、支えあうように努めていきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前入居されていた方のご家族が、なじみの入居者に、会いに来られたり、イベント参加してもらったり、長期入院により退居された方は再度入居の申し込みをされる方がほとんどで移動された後も病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、顔を出し様子を見ている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の希望を聞き、ケアプランを作成している。自己表現が困難な利用者の場合、行動観察を行い、アセスメントを行っている。一場面の前後の行動をカンファレンスで話し、個人の背景を把握し、ニーズに添えるよう努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接にて、本人、家族、施設、病院から、できるだけ情報を得ている。入居後も昔話を聞いたり、家族とも密に連絡を取り合い、信頼関係を築けるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各勤務帯において、わかりやすいよう排尿チェック表の記入。毎日の介護記録に食事量、内服、点眼、入浴、バイタルを記入。経過も各時間帯において記入し、大切な事柄は、申し送りの欄がある。生活日誌においても1日の流れを記入し、1ヶ月の状態がすぐわかるよう検温表として全記録を記入し、記録を充実している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の朝のミーティングで気づきを話、必要であればDr. Ns. 家族に相談し、介護計画に反映している。1ヶ月に1回はケアカンファレンスを行い、その人、その時期に合った計画を作成していくようにしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングの中で、利用者の状態について話しており、介護計画の期間に応じて見直しを行っている。1ヶ月に1回はケアカンファレンスを行っており、必要時は計画期間内にあってもプラン変更を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、出勤時に利用者の個別把握のために目を通す記録を決め、把握できるようにしている。休みが続いていたスタッフの場合でも各自1週間ずつ綴じている記録により、解りやすくしている。個別記録で理解し、計画に沿って記録し状態変化の発見が出来る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携を取り、歯科往診やマッサージの往診も行っている。母体が病院のため、病院受診はスタッフが付き添い、その他の病院の受診時の付添いは交通費1回につき100円のみ頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは、避難訓練を通して協力頂いており、公民館も文化祭の参加や夏祭り、家族会の時に椅子を借りたりして活用している。地域の交番に徘徊時の協力依頼している。介護相談員やボランティアの慰問や高校生の交流もある。図書館から本を借りたり活用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じてマッサージのサービスを受けたり、歯科往診してもらったりしている。訪問理美容や地域のケア相談事業所と情報交換している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者は現在までいませんでしたが、事業所のみでは困難な状況になった場合など、GHの意見交換会や市の地域包括支援係に相談し連携をとりながら支援をしていく。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が母体の病院にかかられているが、皮膚科、歯科、眼科などかかりつけ医のある方は継続して変更することは、ほとんどない。受診はスタッフが付き添っているが受診時の報告は随時、行っている。家族が付き添われる入居者もある。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の相談がスムーズであり、必要時は受診し、じっくり話しを聞いて頂いたり、指導や内服変更してもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者の健康管理を行っている。夜間や休日は電話連絡や、車で5分の所に在住のため、必要時は施設にきてもらったり、母体の病院のNs.に連絡して助言をもらっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には家族と共に医師から診断結果、治療計画を聞き、入院中は、担当看護師やソーシャルワーカーと連絡を密にし退院の調整、今後の対応を話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ該当者いませんが、本人、家族、主治医と何度も話し合いを繰り返しその時、その時で家族、本人の意向を確認しながら対応し方針を共有していくようにしていく。急変時の対応などもスタッフ間で共有し介護にあたっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ該当者いませんが、そういう場合に備えてGHの意見交換会にてターミナルを経験したホームより意見を聞き、予測される事柄や、ホームの機能を説明し、状態変化に対応し、訪問看護の導入などの苑で出来ること出来ない事を把握しスタッフ、家族で協力し日々検討していくようにする。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には、利用していたサービス機関から本人の状況、習慣、好みなど情報をもらい本人、家族の希望や状態を検討し、ホームから移られる場合は、これまでのケアの工夫など、情報を提供し、ケアの継続やダメージが最小になるようにしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前での排泄の声かけ時は気配りし、耳元で確認したり言葉でなくサインで確認したり、カンファレンスでも呼び方や話し方、接し方など誇りや尊厳について話をするようにしている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	体操やレクリエーション参加は利用者の意思を大切にしている。食物や料理法の希望も伺っている。入浴についても本人の意思を大切に、いつでも入れる。カンファレンスで、1行動をもとにして、ニーズ、精神状態について話し、意向を把握するようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に、希望によりドライブや買い物に行ったり、日中臥床を希望される場合は臥床していただいている。状態、ニーズにより食事時間をずらしたり、入浴はいつでも入れるようにしている。夜は希望時間までホールで過ごしていただいている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活習慣に基づいてネックレスや指輪をされたり、外出時やイベント時は身だしなみについてアドバイスを行っている。希望時、美容室より訪問してもらいカットやパーマしてもらったり、行きつけの美容室に行かれる方もおられる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒に同じ物を食べており、時々食べたいものや料理方法について問いかけを行っている。苑内で採れた作物を料理に取り入れたりしている。生活リハビリの中で野菜や魚の下ごしらえや下膳テーブル拭き等、その人にあった望むことをしていただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食前にビールや焼酎を食されたり、タバコを吸われたり、和菓子が皆様好物で、白玉ぜんざいなどおやつに作り提供している。家族がおやつを持参された場合、事故対策としてスタッフ預かり名前を記入して提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行動観察、記録による排泄パターン把握による誘導に努め、排泄チェック表をスタッフで共有し誘導への協力を行っている。安易に紙パンツ、オムツにしないようカンファレンスを行っている。排泄の確認は手で、サインをもらったり、耳元で確認したりしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夜、朝以外、午前、午後、毎日いつでも入浴できる。入浴拒否のある場合、タイミングを見計らい、無理強いせず、自然に入れるように努めている。基本的に1人で入浴し、仲のいい方は2人で入られる事もある。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	意欲低下からADL低下につながらないように、生活リハビリをしているが、その人その人の生活習慣、昼寝など生活リズムを崩さないように支援している。夜間頻尿などで良眠できていない場合などは日中居室へ誘導し、静養して頂くようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活習慣、職業などにより、特技を把握し、それに応じて書道、生け花、裁縫、料理などしたりしている。本人の趣味、経験に応じた楽しみ、気晴らしの支援したり、ADLに応じて役割を提供するも利用者自分でやりたいこと、一緒にしたいことを重視している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の一部に小額を持っている方がいる。お賽銭や買い物では、お金を渡し、支払いを直接行ってもらう場面作りをしている。	○	買い物など金銭を取り扱う場面をもっと多くしていきたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やなじみの店での買い物、床屋等に出かけている。地域の文化センターや図書館やイベント行事に行ったり、車椅子を持参してドライブしたり、車椅子で散歩したりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と一緒に墓参りや外出、外泊、祭り等に出かけてもらっている。年間行事として、季節ごとに桜やコスモスなど見学に行ったり、足湯に行ったりしている。又、本人が行きたいという希望があり、スタッフ付き添いで行ける所は随時、対応している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の希望があった際には取次ぎを行っている。また手紙のやりとりも、スタッフが横についてアドバイスを行うなどして行っている。手紙、はがきの受け渡し時はプライバシーに配慮している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は21時までと決めているが電話連絡していただければ歓迎している。面会時はゆっくり過ごせるよう居室へ誘導しお茶、お菓子を提供している。希望があれば談話室を利用してもらったりしている。情緒が乱れている時はスタッフがパイプ役となっている。	○	家族が気軽に宿泊や入浴できるよう機会あれば話すようにしていく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	心の拘束、言葉の拘束、身体拘束は基本的に行ってはならず、高齢者虐待防止法の勉強会時に拘束についても指導し、日常的にも拘束のないケアを実施しており実例はゼロです。転倒の恐れのある方にはセンサーマットにより予防している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	毎日の見守り担当者を決め、自由を奪わないように対応している。玄関、ドアは日中は鍵は掛けず開放しており、玄関にセンサーマットを活用しているが、利用者が玄関に行かれる時も見守り付きあっている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して1名以上のスタッフがホール、キッチンに居て、利用者の行動把握に努めている。業務分担で見守り担当者が責任を持って行っているが、席を外す際は他スタッフに声かけを行っている。夜間の行動に危険のある方には、センサーマットにて対応している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	スタッフ間で注意が必要な物についての共有、管理している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、転倒の報告を活用し、事故の再発防止に努めている。急変時対応マニュアルがあり、事故防止方法の共有をし、日々のミーティングの際に個々の想定される危険性について話し合い危険防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、事故発生時に方法の共有をし、消防職員から救急救命の指導を受けている。予測される変化に対しては、其の都度、対処方法等を伝えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼設定、夜設定の避難訓練を消防署と地域の住民も参加してもらい、一緒に行っている。消火器、火災報知器の点検も定期的に行っている。非常用食品や備品を準備している。毎夜勤時、安全確認にて5項目の点検を行っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	其の時の状態に合わせ、起こり得るリスクは常にありのまま家族に伝え、家族の意志を確認しながら一緒に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、変化については、看護師が報告を受け、アドバイスを行ったり掛かり付け医へ連絡し受診している。変化事項は、介護記録の申し送り欄に記入したり申し送りノートに記入したりして情報の共有に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに各自の薬剤情報をファイルし、変更のあった場合にはマーキングして分かりやすくしている。又、大切な薬は赤マジックでチェックしわかりやすくしている。飲み忘れや誤薬防止のため毎食時に仕切りのある薬剤箱に入れて配布している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつは乳製品を多く出すようにしており、献立にも根菜類を多く使用するようになっている。排泄チェック表にて排便状態を確認し、散歩や体操を日課とし、水分補給に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは個人の状態に合わせ、介助が必要な方は、付き添い介助を行っている。歯科往診も定期的に来ていただき、年に1回検診も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の1日の食事が把握できるように記録し、毎月体重測定を行い、状態変化チェックしている。入居者の好物を聞き、献立に取り入れている。	○	定期的に栄養士の観点からチェックをしてもらうようにしていきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時、感染症の確認をし、感染症対策のマニュアルがあり共有している。毎年、インフルエンザに対し、スタッフと入居者は予防接種を受けている。スタッフは1/月、検便しサルモネラ赤痢、0-157のチェックをしている。年1回、水質検査もしている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物を行い、無駄のないように新鮮な食材を提供している。衛生チェック表を用意し冷蔵庫は1/週、食器は乾燥機にて高温消毒を毎回施行。まな板は天気の良い日は日光消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門や駐車場にはつつじやつげを植え、玄関口にはプランターに花を絶やさないうち植えている。玄関口は家庭的な表札を設置し、玄関横にはガーデンチェアセットを設置している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景にならないように、廊下やトイレに写真や絵を飾っている。ホールにも観葉植物や季節の生花を生けていたり、季節の感じられるものを飾っている。浴室からは庭園が眺められる。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	裏のウッドデッキにはガーデンチェアセットがあり、日光浴をしたりお茶したりタバコを吸ったり、ホールには和室もある。玄関横にもチェアセットや中には縁台もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具や小物が置かれ、それぞれ個性のある空間作りに努めている。仏壇を置かれた入居者もあり。壁には家族との思い出の写真を貼られたりしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	真夏や真冬でも、朝の掃除の際には窓を開け換気するようにしており、各居室には換気扇が設置されており、ホールには乾湿計を設置し、適切な温度と湿度の管理を行っている。温度は高齢者に合わせ、冷暖房は、こまめに切るようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しており、各居室には夜間のトイレ誘導のための小ライトもあり廊下も小ライトある。室内灯も2段階にできる。下駄箱の前には縁台を用意し腰を掛け自分で靴の着脱が危険なく出来るようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境整備の係を決め、環境整備に心がけている。各入居者の居室入口には入居者の目の高さの合わせ表札を設置し、トイレのドアには分かりやすいように大きく目印している。当日勤務スタッフの写真をボードに表示し、利用者に分かりやすいようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の敷地が広く、苑内を散歩したり、田んぼや土手に近いため苑外散歩してりしている。裏の苑内の畑で作物の収穫をしたり、草取りしたり、水撒きしたり、ウッドデッキや玄関横のテラスでお茶したり、日光浴したりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

早朝、夜以外はAM, PMいつでも、毎日入浴することが出来、広い敷地を利用して散歩や外出など外に出る機会を多くし、生活リハビリを通して以前での家庭生活に近い状態で過ごしていただけるように努力しています。母体が総合病院なので病状管理を徹底し、受診介助やリハビリ通院介助を行っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な生活環境の中で、それぞれの持つ残存能力を活かし、住み慣れた地域と交流を持ちながら、安らぎと喜びの毎日が送れるように支援していきます。」を理念に掲げ一人ひとりに添った自立支援を大切にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を玄関とスタッフコーナーに掲げ、毎週月曜日に朝礼を行ない復唱している。又全体会議で目標をを具体的に説明し、理念の実践に日々心がけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居申し込みの際に理念の説明を行い、地域向けの広報誌(年3回発行)で理念や方針について案内している。家族に向けては家族会で理念を交え挨拶しており、月に1回スマイル便りを発行し理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方をホームの夏祭りに招待したり、ホームの畑で収穫した野菜を近所におすそ分けしたり、近所からも季節の野菜を頂いたりと交流に努めている。	○	近所への散歩の機会を多く持ち、顔なじみになり気軽に遊びに来てもらえるように努める。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の区長さんと連絡を取り合い、地域の行事に参加し、顔見知りになりいつでも気軽に来てもらえるよう努めている。	○	地域の老人会に加入し、小学校や幼稚園との交流を持ち、地元の活動や交流に積極的に取り組んでいきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学生の職場体験受入れや介護相談の窓口になり近所の方に気軽に相談に来てもらえるよう努めている。	○	地域との交流範囲の拡大に努めながら認知症についての普及活動を行う。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議やユニット会議で評価項目について話し合い、提案、改善の意見を出し合っている。毎年指摘を受けた事柄について意見を出し合い、改善に努めている。運営推進会議の中でも話し合い家族会においても説明している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、私達がどのような事を行っているか、今後取り組んでいきたい事などを報告し、市職員や地域の方の意見、提案を仰ぎ、議事録に残し、その後スタッフで話し合い、改善実行できるようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの便りを配布し、市町村主催の会議等へ出席し連携をとっている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の担当課よりパンフレットもらい説明を聞き、研修会があれば参加するよう努めている。	○	入居時に制度についての情報提供を行なうようにしていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の担当課よりパンフレットもらい、全体会議で勉強会を通し、学習し話し合っている。研修会があれば参加するよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目について説明し、理解、納得を得られるように努めている。契約解除に当たっては入院中の場合には家族、医師と共に話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より介護相談員の訪問を受入れ、利用者の言動より不満、苦情を探るように努めている。運営推進会議のメンバーとして利用者に参加してもらい、意見や要望を聞いている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、個人記録を開示し、生活状況や健康状態を説明している。心身の状態に変化があれば随時報告している。預かり金は、金銭出納帳をコピーし、領収書と一緒に家族に渡し確認印をもらっている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で家族の意見の収集に努め、玄関先に意見箱を設置し、管理者が対応している。運営推進会議で外部者へ表せる機会を設けている。苦情、意見があれば全体会議で話し合い改善に努める体制作りをしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議、申し送り時に意見を聞く機会を設け、改善すべき問題があれば検討し、運営に反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者主体に人員配置を行っている。食事作りのみのパートの方をお願いしたり、A・Bユニットスタッフがお互い勤務調整を行うことで、協力体制を整えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内行事をA・Bユニット合同で行い、全てのスタッフが入居者全員と馴染みの関係になれるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢に関係なく雇用している。各自得意な事に役割を持ち、能力を活かしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の人権問題講習会に参加し、全体会議において伝達学習を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験、力量に応じ研修会へ参加し、資格取得のすすめなどを行なっている。	○	育成計画については検討していく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員の見学や説明の受け入れをしている。	○	市内のグループホームと今後、勉強会交流を行う予定。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室でくつろげるようテレビや寝具を用意している。定期的な懇親会を開催し、意見を聞く機会を持っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価、上司評価による成果を給与に反映させるなどしている。健康診断の実施、産休、育児休暇実施、労働条件の向上に向け努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、病院からの情報提供を参考に本人のニーズの把握や不安の解消に努めている。その後も引き続き日頃の業務の中に相談できる時間を設け、受け止めるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の家庭訪問や数回の面会を重ね、ご家族や本人の要望、困っている事などを聴き、それを受け止めて日々の業務に努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時に十分な時間を設けて話を聞き、利用者のレベルにあった生活の場の説明や紹介などもしています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者家族へ事前に御本人に見学して頂くようお願いしている。担当職員は何度か訪問し、顔なじみの関係を作り、御本人が納得してから利用してもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事を職員が把握しており、食事作り、洗濯物たたみ、園芸、掃除など、共に作業を行い、知恵を授かることも多い。感謝の言葉を必ず伝え、入居者の方からも気遣いの言葉を受けている。		
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をできるだけ取り合い、家族の協力が必要な事(お墓参り等)をお願いしたり協力して頂いている。家族や地域の方より野菜の差し入れや、行事の手伝い(誕生会)など来て頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多くの家族がよく面会に来られ、家族との外出、外泊など共に支えあう関係が築けている方も多し。本人の誕生日、行事等に家族を招き、共の楽しめる機会を作るなど多くの接点を持てるよう工夫している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の方や近所の方等いつでも来てもらえるように夜間8時前であれば制限なく面会でき、各居室を馴染み、安らぎの場になるよう昔から使用されていた鏡台などを設置したり、写真を飾るなど部屋作りに努めています。馴染みの美容室へ通われている方もいます。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う人同士が近い席になる為の工夫をしたり、スタッフが間に入ってコミュニケーションをとり、孤立しないよう支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院により退居された方は、再度入居の申込をされる方がほとんど移動された後も病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、顔を出し様子を見ている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の希望を聴き、ケアプランを作成しています。適切な訴えが困難な方に対しては日常の行動や表情から察し、スタッフと相談しながら意向の把握に努めている。	○	日常の会話の中から食べ物の好みや行きたい場所、好きな事を聞きだし、実現に努めている。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、本人と面談し情報を得ている。入居後も家族と連絡を取り合い、話をしてくれやすいような信頼関係を築けるよう努めている。毎月定期的にカンファレンスを行い、本人の意向に沿えるように検討している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の心身状態また有する能力に応じ、できる事、得意な事を把握し、その人らしい生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のスタッフの気付きを朝のミーティング話し合い、必要であれば、医師、看護師、家族に相談し、介護計画に反映している。変更時は申し送りノートにて伝達している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、介護計画の見直しを行うと共に状態の変化に応じ随時話し合いの上、介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量、排尿、排便回数、バイタル測定など、個々の状況に応じて気をつけるところは赤ラインで囲み、目が付くようにしている。大切なところは申し送りノートに記載しスタッフ全員周知できるようにしています。その後カンファレンスなどで話し合い計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	スタッフに看護師が勤務しており、日々の健康管理や急変時の対応ができる体制をとっている。又重度化や終末期の場合の指針を整備し、対応できる体制作りを努めている。更にいつでも外出、外泊の希望に副えるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、区長、公民館長に苑の行事に参加して頂き、意見交換などを行っている。消防署や近所の方に年に2回の避難訓練時協力してもらっている。地域の交番に徘徊時の協力依頼を行い、苑行事にボランティアを活用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により、訪問理美容や訪問針・灸・マッサージを利用し、支援している。地域のケア相談事業所と情報交換している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの方々も参加して頂き、意見交換を行なっています。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が総合病院であり、緊急時はすぐに対応でき、医師との連絡を持つことができる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師へ相談ができ、助言や指導を頂ける関係作りに努め、その診断や治療が受けられるようにしています。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、夜間帯、休日は電話連絡相談を行っている。又母体である病院の看護師に連絡し助言をもらっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院の看護師・ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、治療経過を聴き家族と連絡を密にし退院の調整、今後の対応を話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合、終末期の指針を説明し同意を得ています。状態変化ごとに意思確認を行い、急変時の対応などを事前にスタッフ間で共有し、介護に当たっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護導入などを含め、ホームでできる事、出来ないことを把握し、スタッフと家族が協力し、日々検討していくように努めています。	○	今後の変化に備えて検討や準備を行いたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居以前に利用されていたサービス機関から情報をもらい本人、家族の希望や状態を検討し、今までの生活が継続できるよう支援しています。ホームから移られる場合は本人、家族の了解をもらい、情報を渡しています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の方を人生の先輩として尊敬する事を忘れないようにしています。個人情報については入居時に守秘義務について重要事項説明書に明記し、スタッフ全員周知徹底しています。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の献立選びやデザート選びをして頂いたり、一緒に買物に出かけ本人が希望する物を選んでもらっている。レクリエーション参加については、本人の自由意思を尊重している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間など入居者の希望に合わせ、午前・午後とも行なっている。食事時間も個人のペースに合わせ見守っている。申送りによって、その人の前日から夜間の様子を把握し、その日の体調等を考慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時には整容の声掛けをし、着替えは本人の好みの服を共に探し、支援している。理容・美容は入居者、家族の希望を聞き、馴染みの美容室へ行ったり、ホームへ来てもらったりしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ食材をむいたり、切ったり、混ぜたり、テーブルを拭いたりお手伝いをして頂いています。日常会話の中で好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れるようにしている。食事は同じ物を入居者、スタッフ一緒に頂いています。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の許可をもらい、お酒・タバコが出来るようにしている。飲み物、おやつ等の嗜好品は可能な限り手作りの物を提供し、要望があれば個人購入で買ってきている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記録して個人のリズムを把握し、トイレの声かけを行なうなど失禁を少なくしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や午前・午後と制限することなく、本人の希望に合わせて一人ずつゆっくり入って頂いています。拒否があるときは時間を置いたり、コミュニケーションを取り、職員で連携している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別記録を基に睡眠パターンをスタッフ全員が把握するように努め、場合により本人が希望すれば、主治医の指示で処方された薬剤で調整を図っています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・料理・園芸など本人の趣味、経験に応じた楽しみごとや役割が出来るような支援を心がけている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物はスタッフが付き添い、能力に応じてお金を持って頂き、本人が直接財布からお金を出し支払うように支援しています。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日は体調を見て、買物や散歩に誘っています。希望があれば出来る限り対応し、歩行困難な方は車イスを利用し外出してもらっています。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいという希望があり、職員付き添いで行ける所は随時対応している。又家族に連絡し、連れて行って頂けるようお願いしている。親しい入居者同士とその家族で、外出・外食されることもある。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話をして頂いたり取り次いだりしている。手紙は直接本人へ渡し、希望されれば代筆し投函している。個人で携帯を所持している方もおられる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	御家族だけではなく全ての訪問者に対し気軽に訪問して頂けるように、常に挨拶や声かけや居室にお茶を準備するなど配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを当たり前のこととし、マニュアルを準備している。転倒の恐れがある方にはセンサーマットを利用し予防している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口にセンサーマット設置し、日中施錠することはない。利用者が外に出られた際は、そっと見守り付き添っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1名以上のスタッフがホール、台所において利用者の行動把握に努めている。夜間の行動に危険が伴う方には、センサーマットなどで本人のプライバシーに配慮できるように支援している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な薬品等は利用者の目に付かない鍵のかかる場所で保管している。個別に利用可能であることを考察し、スタッフのもとで使用してもらっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為に、ヒアリハットを記入し、申し送りや全体会議で再発防止に向けて検討している。又定期的に火災訓練(年2回)を実施している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、定期的に勉強会を行なっている。又消防署員から救急救命の指導を受けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用食品、備品を準備し、定期的に火災訓練を行なっている。	○	前回の火災訓練では近所の方4名に来て頂き協力してもらっている。次回からも協力をお願いしていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々の状態に合わせ、おこり得るリスクは常にありのまま家族に伝え、私達で出来る事を説明し、家族の意見を尊重している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食事摂取量チェック、排便回数・量チェックを行い、表情や行動の違いに気を付け、また訴えをよく聞くようにしている。異常時は速やかにかかりつけ医へ連絡し、受診している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容と説明書を個人ファイルに綴じ、分かりやすくしている。また大事な薬は赤マジックでチェックし、薬管理箱を作成し、薬包に名前と朝・昼・夕・眠前と記入し正しく服用できるように管理している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操を日課とし、食物繊維を多く含む食事の工夫を基にし水分補給に努め、その予防に努めています。又必要に応じて医師の指示のもと整腸剤や下剤なども使用しています。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは個人の能力に合わせ、介助が必要な方は付き添い介助を行っている。又義歯の洗浄（ポリデント）は毎日行っている		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量チェックを行い、利用者の疾患や嗜好を把握し、食事形態に変更があれば申し送りノートにて全員が把握し、支援している。毎月の体重測定から栄養状態を観察している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、スタッフ間で周知徹底するようにしている。速乾性手指消毒剤を設置し、手洗い後使用しています。	○	感染症に関しては随時知識を深めていきたい。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買物は毎日行い必要な物以外は買わないようにし、新鮮な食材を提供している。ハイター乾燥機による高温消毒を行い、毎日、衛生管理表にてチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者と共に植えたお花や家族の方に頂いた鉢などを飾り、安心して出入りできるようにスロープや手すりを設置している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルや棚に飾り、窓にはロールカーテンを使用し、まぶしくないよう調節している。テレビの音量にも気を配るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂席の配置の工夫やホールにソファを置き、自由に座れるようにしている。又中庭のウッドデッキ、玄関前にも椅子を置き、少人数で過ごせるように工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真などを飾り、本人の希望を尋ね、家具の配置をしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は利用者個々で多少の違いがあり、個別に調節している。朝の掃除の時間に窓を開け空気の入替えを行い、換気扇を24時間作動させている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は安全に往来できるように広くとっており、床はバリアフリーである。廊下、トイレ、風呂場には手摺を設置し、玄関下駄箱前には椅子を置き、利用者に配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレ、風呂場に、札や貼り紙のれんをつけて分かるように工夫している。また食事献立表や当日勤務スタッフの顔写真と名前を表示したボード等を、利用者に分かるように設置しています。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花畑や鉢植えがあり、季節の花を植えスタッフと利用者と一緒に手入れをしている。また畑を作っており、収穫を楽しみにしている。天気の良い日は玄関前やウッドデッキで外気浴を行っている。	○	じゃが芋、さつま芋、玉葱、南瓜、茄子、豆を作り、利用者、職員で収穫し、みんなで食べられる喜びを共有していけるよう取り組んでいきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と	②家族の2/3くらいと	③家族の1/3くらいと	④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように	②数日に1回程度	③たまに	④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている	②少しずつ増えている	③あまり増えていない	④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が	②職員の2/3くらいが	③職員の1/3くらいが	④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が	②利用者の2/3くらいが	③利用者の1/3くらいが	④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が	②家族等の2/3くらいが	③家族等の1/3くらいが	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 散歩、ドライブ、買物など外出の機会を多く持っている。 * 地域の人たちとの交流がある。 * 午前、午後いつでも入浴できる。 * 母体である総合病院と連携し病状管理を行っている。 * 家庭的な生活環境を提供している。